

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

自己点検・自己評価報告書

大阪自動車整備専門学校

令和3年4月30日作成

1. 理念とミッション

本校は教育基本法及び学校教育法、その他の関係諸法令に基づき工業専門課程を設け、優秀なる自動車整備技術者の養成を目的とすることを基盤とした教育理念を掲げている。

また、「知識・技術・徳育」という理念の下、知識・技術のみならず人間性を育成し、人としての成長を目指すと同時に、それら一方に偏ることのないバランスの取れた実践的教育・指導を行っている。

2. アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

本校の特色や教育理念を理解し、自動車整備の知識・技術を習得して、国家資格である2級自動車整備士となり、時代を牽引する自動車業界の担い手となることを志す、情熱にあふれた人を受け入れます。

3. 受験資格

1. 高等学校を卒業見込み者、または高等学校卒業者。
2. 文部科学省が行う大学入学資格検定、高等学校卒業程度認定試験合格者。
3. 外国において、通常課程による12年の学校教育を修了した者。または高等学校に準ずる教育を受けた者で以下のいずれかにあてはまる者。
 - ・日本語能力試験2級またはN2合格者
 - ・日本留学試験での日本語得点が200点以上の者
 - ・財団法人日本語教育振興協会認定の日本語教育機関において、6カ月以上の日本語教育を受けた者で、その間の出席率が90%以上の者
4. 上記1・2・3のいずれかに該当する者で自動車整備技術の学習、及び普通自動車運転免許(AT限定車を除く)取得が可能な者。

4. 入学者選抜の方法

本校の入学選考は、指定校推薦入試・自己アピール推薦入試では面接のみ、一般推薦入試・一般入試では、数学による適性試験と面接を行う選考システムを採択している。面接試験に関しては面接シートを作成し、それに従って校長が

公平な審査を行っている。入試直前には全教職員による全体会議を行い、今年度の入試方針、要綱、審査方法等の周知に努め、公平かつ適正な入学選考を実施している。

自己判定：入学選考については、毎年度厳正な審査のもと選考を行っており、今後も徹底して維持に努めていく必要がある。

5.入学者受け入れの方法

学生募集活動としては主に、各種広告媒体会社を通じ広報活動を行っている。インターネットでの学校案内、募集要項の掲載をはじめとした情報提供ならびに、本校広報担当職員が会場説明会、高校説明会等で学生の誘致を行っている。また、通年でオープンキャンパスを実施しており(今年度は19日間)、学校説明・設備見学・体験実習・個別相談を行っている。体験実習では実際に実習車を使ってエンジンの分解と組立、マフラー交換、ホイールアライメント測定、日常点検などを体験することができる。ディーラーとのコラボ企画も行っており、各ディーラーの自動車を教材にしたデモンストレーションやタイヤ交換、下回り点検など、多彩な実習体験ができる。

夏には、サマースクールと題して実際の学校生活に近い10時から16時半という時間帯での体験入学も行っており、学校の紹介や学生の自己紹介、簡単なゲームの後に学科授業や実習授業を行って、普段の学校生活の雰囲気を経験してもらっている。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の為、例年とは大きく違う状況となった。まず、対面での活動が難しかった為、サマースクールも含め夏までのオープンキャンパスが5回中止となり、ガイダンスはほぼ中止となった。その対策として媒体での広告を強化し、SNSを利用した『LINEでオープンキャンパス』『ZOOMでオープンキャンパス』『MYオープンキャンパス』などの企画を実施した。学生側も例年より活動の時期が遅くなると予想された為、DM等の告知を強化して、参加してくれた学生には少ない機会でもしっかりと印象を残せるように意識して対応した。

また、平日9：00～16：00まで随時個別対応の受付をしており、HP・電話またはQRコードにより申し込みできるようになっている。

自己判定：高校説明会において実習体験を含むガイダンスは特に毎回好評で、自動車に興味のある高校生の意欲を掻き立てる効果を生み出している。オープンキャンパスでの体験実習においても、マンネリ化しつつあった実習内容を大幅に改良することによって希望者が増加し、一度のみならず何度も参加するリピーターが多く出ている。また、実際に参加した学生にはアンケートの記入を依頼しており、「先生が丁寧に教えてくれた」「体験実習がおもしろかった」と好評を得ており、学校選びに雰囲気重視する学生の傾向に沿った内容になっていると考えている。実際に入学した後の生活とのギャップが大きくなるよう、改善すべき点も再考して工夫していく必要がある。

ホームページ・SNS利用に関しては、アピールの仕方を工夫し、最新の情報や学校での様子を日々アップする事で、アクセス数が増加しており、学校の認知度アップにも繋がっていると考えている。

今後は更なる入学者の増加を目指して広報活動を拡げていかなければならない。また、年度の広報費の中で、効率的によりよい結果を生み出す活動計画を考えていく必要がある。

6.カリキュラムポリシー

国家資格である二級自動車整備士資格試験に確実に合格する為の知識・技術を習得することのみならず、卒業後に社会に出たときの即戦力となるような、実践的かつ細やかな教育・指導を目指している。

7.カリキュラムの内容

今年度は新型コロナウイルス感染拡大による休校要請の為、授業開始を4月から6月に変更する事となり、カリキュラムも大幅に変更する事となった。変

更後は自動車整備科として2年間合計2322時間の授業時間数を設けており、国の定める指定時間1800時間をカバーしている。具体的には、2322時間のうち学科798時間、実習1285時間、一般教養239時間で構成されており、学科で学んだ自動車の知識をすぐに実習で実際に車を触って獲得していくという授業カリキュラムを立てている。実習時間を多く設けることにより、多様なメーカー車や二輪について学び、現場に出た時の対応能力を高める実践的授業に力を注いでいる。各メーカーに最新の自動車を持って来ていただき、技術指導、研修も実施している。また、ハーレーダビッドソンジャパンより実習車両の提供を受けて授業を開始している。このハーレーダビッドソンの授業を目的に入学してくる学生もあり、他校には無い企画・授業展開を行っている。また、平成30年度より学内での技術大会も実施しているが、今年度はカリキュラム変更の都合上中止となった。

自己判定：学科で学んだ知識を、すぐに実習で実際に車を触ってイメージを獲得していくというサイクル型の授業構成に関しては、学生からも評価を得ており、非常に教育効果の高いカリキュラム体制であると評価している。学生の苦手分野を克服する為の「寺子屋」制度での指導も非常に好評を得ている。産学接続型教育ともいえる取り組みは、学生にとってもスムーズな社会人への移行につながっており、就職への意欲をもって学習に取り組んでいる。

今年度は感染防止の為実施が難しかった各メーカーによる技術指導も、今後は状況を見てもっと授業数を増やしていければと考えている。

8.審査体制・修了要件

本学は国家資格である二級自動車整備士資格取得に向けて特に厳しい出欠管理が必要とされているため、前期・後期に行われる中間、期末試験の成績のみならず、出席時間数も厳格に管理の上で成績・単位認定を行っている。年度始めには成績評価・単位認定の基準の見直し修正を行い、月に一度のペースで職

員会議を開くことにより全職員で学生の成績・出欠管理を行っている。また学生に対しては、入学時配布の『学生の規範』にて評価・認定基準を明記し、周知を図っている。

自己判定：試験の点数・出席時間数のみならず、日頃の授業態度も考慮して総合的判断を行っているとして評価できる。成績評価・単位認定ならびに出席状況については常に保護者への情報提供を行っているが、その情報が保護者までに留まり、学生まで行き届いていない場合がある。欠時率の高い学生ほど自らの状況を把握していないことが多いので、そういった学生の注意をより喚起する方法を模索しなければならないと考えている。

9.学生の支援

・経済的支援

本校では、特待生・準特待生制度を設け、出席良好かつ成績優秀な学生に対して学費免除を行っている。同時に、必要な学生に対しては日本学生支援機構奨学金や国の教育ローンによる奨学金制度もサポートを行っている。

入学選考の際は、指定校推薦入試、自己アピール推薦入試、一般推薦入試にて入学金の減免制度を設けており、近年では、女子入学金免除制度、兄弟入学金免除制度、社会人入学金減免制度の導入を行った。また新たに年内受験者応援制度、遠方入学者応援制度、留学生応援制度などのサポートシステムを導入することによって、入学者の経済的負担を軽減する努力を行っている。

自己判定：学納金については、本校募集要項に2年間の学費納入金額・内訳を明記し、承諾を得ている上、同分野の各専門学校と比較しても妥当なものであると考える。

学生並びに保護者に対する負担軽減のため、入学金免除・減免措置を最大限行っている。それでも経済的理由による退学が起きる現状

を考え、より具体的な救済案を模索していかなければならない。

・資格取得

在学中の2年間で、アーク・ガス溶接、中古小型自動車査定士資格、危険物取扱者資格（丙種・乙種4類）、自動車損害保険募集人資格、低圧電気特別教育修了証の合計6つの資格試験に挑戦する。また、それぞれの資格試験対策も設けて万全のバックアップ体制をとっている。

二級自動車整備士資格試験については、毎年100%の合格率を目標に教職員一同指導に励んでいる。2年生後期になると「二級対策」授業を設け、二級自動車整備士資格試験合格への意識付けはもちろん、徹底した試験対策に取り組んでいる。

自己判定：本年度、中古小型自動車査定士資格、危険物取扱者資格、自動車損害保険募集人資格の取得率が低下したため、受験機会を増やすなどの対策をとって合格率の上昇を図っているが、やはり一回での合格を目指して資格試験対策に一層力を入れなければならないと考えている。各種試験に対して対策授業の時間数が少ないことも課題である。

二級自動車整備士資格については、合格率100%を達成する為には早期からのサポート体制強化を認識しなければならない。早急に二級対策委員会を設置し、現段階より今年度の対策を模索している。

・就職・進学支援

早期の意識付けのため、例年入学直後に就職進路指導員が個別面談を行い、希望進路の聞き取りを行っている。今年度は6月の授業開始直後に個別面談を行い、7月のマナー講習と共に夏休みの就職活動に向けて指導を行っていった。また面談の際に学生本人の性格等も観察し、個々人の特性、個性を尊重した上で、一人ひとりをきめ細やかにサポートしている。

239時間の一般教養の授業時間を設け、就職ガイダンス、社会人としての基

本的マナーはもちろんの事、履歴書の書き方、電話の掛け方を一から丁寧に教授し、面接・筆記試験対策、適性試験も行っている。

1年生の半ばには、各メーカーのディーラーが一堂に会した就職ガイダンスの場を設けている。各会社の採用担当者と直接話をする事により、様々なメーカー、ディーラーの違いを知り、希望する就職先の方向付けを行う絶好の機会となっている。学生には、このガイダンスによって自分の中の就職意欲を高めるとともに、将来の方向付け、なりたい自分像を明確化し、スムーズに就職活動のスタートを切れるように支援している。

更なるステップアップを目指して大学編入を希望する者に対しては、情報提供を行う事によりサポートしている。

自己判定：就職ガイダンスについては、感染対策を充分講じた上で実施した。

就職意欲の向上、将来への方向付けのみならず、授業に対する姿勢も大きく向上するなど多角的効果が表れており、大いに評価に値する。また、親身な学生サポート制度は、保護者の方々からも好評を得ている。

・学生相談

学生の相談は随時全教職員で対応しており、一人ひとりの悩み・問題に親身になって対応するきめ細かなサポートを心がけている。学生本人だけではなく、保護者とも連携を強化することにより、学校・家庭の両方で学生の状態を把握し、より強力なバックアップ態勢を取れるよう努力している。

また、校内に学生相談室を設け、毎木曜日に公認心理師が在室している。学生生活はもちろんのこと、日常生活やプライベートな事まで、個室も準備して対応している。学生には家族・友人・先生に話しづらい事でも相談できる場所、教職員には専門的な見地からアドバイスを得る場所として活用できるよう周知に努めている。

自己判定：本校ではひとつのクラス・授業に対してそれぞれ担任・担当の先

生が付き、放課後授業等も実施して、学生一人ひとりの性格や成長に合わせた継続的な指導を実践している。授業は自動車業界で経験を積んだ実績がある教員が担当しており、専門知識のみならず、実際の職場や業界についての相談にもしっかりと対応している。

学生相談室については、自発的に来室するのをためらう学生も多いため、教職員が気になった学生に来室を促して面談を実施している。今年度は自ら相談に訪れる学生も増えてきており、利用した学生からは「気持ち楽になった」「不安が解消できた」など好評を得ている。学生が悩みや不安を抱えたままで学習意欲の低下につながらないように、更なる周知に努めなければならないと考えている。

10. 教員の確保

本校の教員は各自動車ディーラーにて第一線で活躍してきた人材を採用しており、自動車の構造はもちろんのこと、様々なメーカーの様々な車種に対応可能である。実際2年間の就学期間で、全てのメーカーの車、並びに二輪の知識も習得することができる。

教職員数に関しては、毎年度増減を把握しており、中期的に計画と目標に沿った人事採用計画を策定している。

自己判定：本校教員は自動車業界で豊富な経験を積んでいる為、現場仕込みの知識と技術を活かした実践的な指導を行っている。また各ディーラーからの採用を行っている為、どのメーカーにも精通しており、学生の希望するどのディーラーにも就職可能である。

自動車分野における教員は豊富な経験が必要となるため、平均年齢が高くなっている。学生の目線に立った指導を考えると、若い教員の採用も進めていく必要があると考えている。

11. 学習環境

・施設・設備

実習教室においては、実践的な学習を行える設備を取り揃えることにより、学生が実際の整備工場をイメージできるようになっている。今年度は新たに実習教材として、日産（ルークス4台）、タイヤチェンジャー1機を追加し、実車を用いることでの教育効果を図ると同時に、より多くの教材を使って、学生が車両に触れる機会を増やすことができるようになった。他にも、学科教室、コンピューター室、進路室、食堂等、必要な教室を備え、全てに空調機能を完備している。近年は分煙化を徹底してきたが、大阪府条例に沿い、本校でも学校施設は完全禁煙とした。

また、近年の女子学生の増加に伴い、女子トイレも1か所増やす等、必要に応じて改善している。

自己判定：学生数やカリキュラムの内容等、需要に応じて常に対応を図っている。設備は定期点検を行い、細心の注意を払っている。また、毎日清掃を行うことにより常に校内を清潔に保っている。学校設立より75年が経過し、近年では校舎の老朽化が現れてきている部分も見受けられるため、現在校舎の建て替え計画を進行中である。スムーズな移行の為、今から配線や設備等を検討していく予定である。

・学外実習

例年は2年間の学校生活で、メーカー整備工場見学、陸運局の検査ライン見学、鈴鹿サーキット、モーターショー見学等の校外学習を行っており、自動車業界の現場を直接見て肌で感じることにより、学生の意欲・熱意を引き出す体験学習を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の為ほぼ中止する事となった。

自己判定：校外学習は、実際の現場見学や最新の車を目にするなどして、更に自動車に対する興味を抱くよう導き、就学意欲向上に役立っている

る。今後は状況を見ながら随時再開していければと考えている。
また、職業教育が求められる昨今、インターンシップの重要性を強く感じており、導入出来ればと考えているが、法定授業時間数を考慮すると、未だ実現に至っていないのが現状であり、課題が残る。

・防災体制

本校では、防犯面を民間のセキュリティー会社に依頼して管理を行っている。防災機器の点検等は随時実施し、職員に対しては緊急連絡網の整備、消防管理委員会構成表を毎年度見直し改正の上、徹底指導している。

自己判定：防災体制においては管理を徹底しており、学園創立以来現在に至るまで、一切の災害被害が起きていない事実は評価できると考える。現状維持に努めるとともに、常に高次レベルを目指す必要がある。

・ウィルス感染防止策

- ◎WEB・LINE の相談窓口開設と連絡網の確立
- ◎登校時の検温と手指消毒の実施及び体調の記録
- ◎学校内でのマスク着用指導を徹底
- ◎各教室、実習場にアルコール消毒液を設置
- ◎定期的に校内空間へ殺菌剤噴霧
- ◎校内及び教室の換気(授業中を含め窓の開閉を実施)
- ◎各学生対応窓口へのスクリーン・アクリル板の設置

自己判定：マスクやアルコール消毒液、アクリル板や教職員へ配布するフェイスガード等の感染防止用の備品を早急に準備し、十分な対策を講じて授業を実施している。体調に異変がある学生や教職員は速やかに報告するよう指示しており、経過を把握して校内の感染拡大を防ぐ対策を取っている。今後更に感染が拡大する

事態も想定して、オンライン授業についても早急に議論を進めている。

1 2. 財務

毎年度はじめに詳細な予算案を捻出しており、それに基づいた学校運営を行っている。また毎年特定預金を積んで財務基盤の安定を図っている。財務情報については、常に公開可能な状態を整えている。

自己判定：公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。人件費についてはかなり抑えられた支出となっており、また大半が築40年を超える建物についても、特定預金により中長期的な改築計画を進めている。現在の財務状況は妥当であると考えるが、より安定した財務基盤を作る為、常に支出をセーブし、改良していく必要がある。

1 3. 法令等の遵守

法令及び専修学校設置基準を遵守した適正な運営を行っており、常に教職員一同および学生にその理解を呼び掛けている。

個人情報保護については、個人情報管理規定を定め、学生管理システムを使用する教職員の個人情報取り扱いに対する意識を高め、基本方針を遵守する体制作りをしている。

自己判定：法令・設置基準の遵守は徹底しており、適正な運営を行っている。学生の個人情報は学生管理システムを使用して厳正に管理しており、明確な管理体制を確立している。

1 4. 自己点検・自己評価、学校関係者評価、第三者評価

自己点検・自己評価については月に一度のペースで管理職会議を行い、財務から学生の状況に至るまで、あらゆる面での話し合いの場を設けている。そ

こちら、委員会・小委員会にて議題の細分化を図り、様々な問題に対しての点検・評価ならびに改善点の抽出を行っている。

学校関係者評価については、定期的に学校評価を受けており、問題点の指摘については改善に取り組み、評価を得た点については更なる向上を目指して取り組んでいる。

また、自己点検・自己評価結果はホームページ上にて公開している。

自己判定：常に自己点検・自己評価を行うことにより、様々な視点で意見し合うことは、新しい発見をもたらし、教職員が一丸となって改善策を見出そうとする相乗効果を生み出している。また、結果を公開することにより外部の意見も取り入れる事ができ、学校運営の更なるレベルアップに繋がっている。